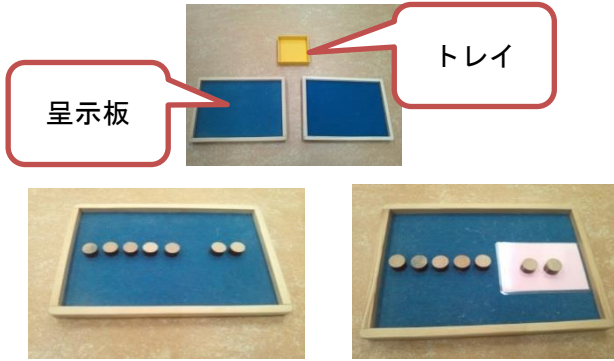


大項目	たしざん
小項目	合成・分解
タイトル (教材名)	「同じ」の学習
目的 身につけてほしい力	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物の操作を通して、6以上の合成・分解を理解する。 ・左の呈示板と右の呈示板が「同じ」であることを理解する。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	<ul style="list-style-type: none"> ・たしざんの前段階の「合成・分解」を学ぶ、児童生徒に有効。 ・「数えたし」「数えひき」をして答えを出す段階の児童生徒に有効。 ・呈示板を2枚、トレイを1枚、準備する。 ・左の呈示板に、おはじきを7個置く。 ・右の呈示板に、おはじきを5個と、色画用紙を置く。 
教材の使用法	<p>例) 7の場合</p> <p>ステップ1: おはじきを、必要な数(2個)だけトレイに入れて呈示する。また、左の呈示板におはじきを5と2にわけて並べる。(できるようになったら、間を空けずに並べる。)</p> <p>児童生徒は、右の呈示板の色画用紙の上におはじきを置いて左の呈示板と同じ数にする。「〇〇さんが、置いたのはいくつ?」と問いかける。また、「5と、あといくつで7とおなじになりますか?」と問いかけて、数を確認する。</p> <p>ステップ2: 「5とあといくつで7とおなじになりますか?」と児童生徒に問いかけ、正しい数が言えたら指導者がおはじきを渡す。渡したおはじきを呈示板に置くよう促す。</p> <p>応用編: おはじきを、必要な数よりいくつか多く(2~3個)トレイに入れて呈示する。ステップ1と同様に、児童生徒は、左の呈示板と同じ数になるよう色画用紙の上におはじきを置く。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献「障害がある子どもの数の基礎学習 量の理解から繰り下がり計算まで」(宮城 武久、学研教育出版、2015)